

日本の女性には協調性が高く サッカーに向いている



photograph : 遠藤直次

サッカー指導者 佐々木則夫さん

2011年のFIFA女子ワールドカップ優勝以来、「なでしこジャパン」はオリンピックを含む主要3大会に連続で決勝進出を果たしました。体格や体力で勝るアメリカやドイツなどの強豪国相手に互角の戦いができるのは、スपीディーなパス回し、激しいボディコンタクト、精度の高いスライディングといった、なでしこ特有のプレースタイルを活かしているからだと思えます。

私は、女子サッカーの指導を始めてすぐ、彼女たち一人ひとりの目配りや気配りの素晴らしさ、コツコツと地味な練習を繰り返す辛抱強さ……そのメタリテイに感銘を受けました。これは歴代の監督も気づいていたことで、日本の女性一般に通じる特徴でもあり

ます。試合では、それがチームの結束力となり、味方のミスを全員でカバーしようとするプレーにつながっているんじゃないかな。

ここまでやってこられたのは 家族のおかげ

私自身は、小学校時代にサッカーに目覚め、Jリーグができる以前の社会人リーグで現役引退するまで、主に※ボランチなどのポジションでプレーしていました。大学を出て入社したNTT関東には、指導者の期間も入れて24年もお世話になり、広報や料金未納対策などの仕事も担当したんですよ(笑)。選手だったころ、突然、妊娠中の妻

が大病を患い入院したことがありました。私が、「サッカーやめて普通のサラリーマンになろうか」と言うと、妻は「私のための人生じゃない、あなたの人生なんだからやめないで」と。その後、女子コーチの要請がきたときも、心から賛成してくれました。ここまでやってこられたのは本当に家族のおかげと感謝しています。

被災地での交流に取り組む

いま、私のライフワークとして3つの活動を展開しています。まず、東日本大震災で被災した方々への支援。私は山形出身でもあり、とくに2011年に優勝したワールドカップ・ドイツ大会

のとき、震災直後の東北から届いた多くのメッセージによって、逆に励まされたことは忘れられません。それと、次世代を担う子どもにも目標や夢を与える教育事業、さらに女子サッカーの普及です。

歴史が浅く環境整備も十分とは言えないなかで、世界に伍して戦えている日本女子サッカーの可能性はまだ大きいと思います。しなやかな動きができて協調性の高い日本女性は、そもそもサッカーという競技に適しているのです。リオデジャネイロ・オリンピックでもご期待ください。

※ボランチ：中盤で相手の攻撃の芽を摘み深い位置からゲームを組み立てるポジション

Profile ● ささき・のりお

1958年、山形県生まれ。小学生のときサッカーを始め、帝京高校3年時には主将としてインターハイで優勝。明治大学、電電関東/NTT関東(大宮アルディージャの前身)でもプレーした。33歳で引退後は指導者の道を進み、大宮の監督や強化普及部長などを経て、2007年からサッカー日本女子代表監督。就任直後の北京オリンピックで「なでしこジャパン」を4位、11年にドイツで行われたFIFA女子ワールドカップではアメリカを破り初の優勝に導いた。同年、国民栄誉賞(団体受賞)。12年のロンドンオリンピック、15年のカナダのワールドカップでも銀メダル獲得。

